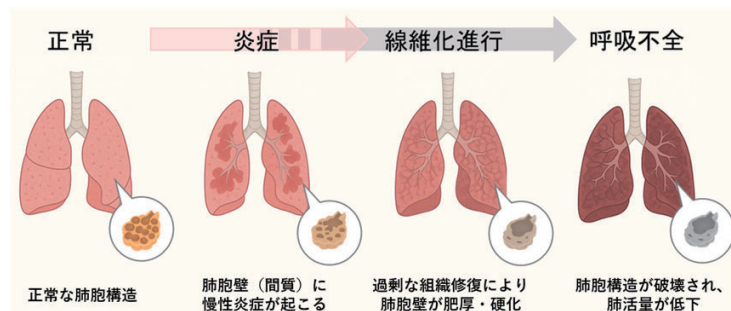


希少疾患治療を目指す抗線維化吸入製剤の開発

🫁 特発性肺線維症 (IPF) とは？



特発性肺線維症 (IPF) は、原因不明で進行性の肺の難病です。診断から5年以内に約半数が亡くなるとされ、進行すると肺が硬くなって呼吸が困難になります。現在の薬は進行を遅らせる効果はありますが、肺の回復までは期待できず、副作用で治療が続けられない人も少なくありません。高齢化とともに患者数は増えており、社会全体の課題となっています。

💊 現行の医薬品の限界



治療効果: 病気の進行を遅らせるだけで治すことはできない

既存薬では一度進行した線維化を回復させることができず、疾患の進行を遅らせるだけに留まります。



継続性: 副作用 (下痢、肝障害など) で治療中断のケースも

経口投与による全身性の副作用 (下痢、肝障害など) が治療継続の障壁となっています。

★ 私たちの新規治療薬候補の革新性



大分大学発の新薬候補

大分大学で実施されているAMED研究 (代表: 松岡 茂、令和5年5月29日の定例会見で報告) で発明された新規化合物。



線維化の回復を実現

既存薬が「病気の進行抑制」に留まる中、本新薬候補は一度進行した線維化を回復させるという画期的な効果をマウスモデルで確認。



副作用リスクの大幅低減

マウスモデルで治療効果が得られる薬物濃度の15倍以上を投与しても、体重減少や異常行動などの副作用の兆候は全く見られない高い安全性。



経肺投与による局所高濃度

患部である肺へ直接投与することで、より効率的かつ選択的に患部に薬を届け、余計な暴露を防ぐ、安全性をさらに高めた薬剤設計。



本プロジェクトの開発イメージ

マウスモデルで線維化した肺組織を逆転して回復させる画期的な原薬を、ナノカプセル技術により経肺投与型治療薬として開発。AMED橋渡し事業で製剤化した試作品を用いて、PARKSの資金を基に製剤PoCの獲得。人への応用に向けて今後スタートアップを設立予定。「IPFを治す薬」の実現を目指します。